

## 第5回まちづくり懇談会 議事要旨

- 1 日 時 平成27年12月4日(金)午前10時30分～午前11時30分
- 2 場 所 船橋市男女共同参画センター1F 研修室
- 3 団体名 ふなばし女性会議
- 4 テーマ 「男女共同参画の推進」
- 5 次 第
  - (1) 開会の辞
  - (2) 出席者自己紹介
  - (3) 市長挨拶 【 船橋市長 松戸 徹 】
  - (4) 活動報告
  - (5) 懇談

### 【市長挨拶】

今、男女共同参画は社会が非常に変化する中で、いろいろな取り組みの中身そのものが変わる時期に来ていると思います。行政の中でもまだ出来ていないことが沢山ありますし、率直な意見をお伺いし、勉強しながら活かせるものはしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

### 【活動報告】

ふなばし女性会議は、1985年に12名のメンバーで立ち上げてから、30周年を迎えました。7月には、周年事業として「女性が輝く和歌うたコンサート」を成功裏に終えることができ、30周年記念誌も発刊いたしました。現在は、70名程度の会員で構成されていて、会の特徴として、代表を置かずに運営委員が2か月に1回程度集まり、活動内容を決めています。それとは別に、「労働問題を考える研究会」「高齢の問題を考える研究会」があり、勉強会や会合を行っています。

活動内容としては、6月の男女共同参画週間の中で行われる男女共同参画センターフェスティバル（センターフェスティバル）で運営委員として参加・準備を行っています。独自に市民向けの講演会等も開催しています。会員はいろ

いろな知恵やネットワークをもっている方々ばかりなので、そういった内容をほかの会員や市民に伝えるためのトークサロンも行っています。

また、機関紙『ルミエール』を年2回発行しています。今回は30周年事業を報告した記念号を発行する予定です。さらに、会員向けにリーフレット『会員だより』を年6回程度発行しており、日々の活動内容等を伝えています。

## 【懇談】

### ●団体

初めに、第2次「船橋市男女共同参画計画」(fプラン)については、平成24～28年までの計画となっており、来年から次の計画の策定が始まる予定であるため、その話をしたい。

現在のプランでは、生涯にわたる女性の健康についての視点があまり書かれていない。また、防災について女性の視点をもっと取り入れることが、世論でも求められているが、記述が不十分である。

さらに、大きな問題となっているDV(ドメスティック・バイオレンス)については、他市を見ると、男女共同参画の計画の中にDVの計画も盛り込まれている場合が多いが、船橋市はそういう要素が入っていない。その点はまだまだ検討の余地があると思う。

船橋市では様々な政策を行っているため、それぞれの分野で持っているデータや政策を男女共同参画の視点で見直し、今後の計画づくりに活かしていただきたい。

### ○市長

平成29年度からの新しい計画を策定するうえで、担当もいろいろ考えている。確かに健康や今までにない医療の面など新しく出てきているものがあり、医師会などにそういった意見も聞いていく必要があると思う。

防災については、去年から「防災女性モニター」を公募しており、市の備蓄品を見たり、防災訓練に参加するなど、予算の中で新しい提言があったものを取り入れている。避難所のあり方や、女性の視点から足りない部分を補充し、しっかりとやっていきたい。

DV関係は、家庭児童相談室などから話を聞いているが、いろいろな事情

があり、次期計画に盛り込むかどうかは、まだ明確に答えられない。ただ、何らかの形でそれを防いでいく必要があり、大きな課題なのでしっかりやっていたらと思う。

●団体

男女共同参画に最も重要なのは、各個人の意識改革だと思う。第2次fプランの基本理念に、男女の意識改革が重要となっているので、それが実施されるなら素晴らしいと期待していた。

また、教育も大きなポイントになると思うが、それらに関してはあまり行われていなかったようだ。個人の意識改革は難しいことだと思うが、それについての考えを伺いたい。

○市長

これは非常に難しいと思う。教育現場では公民の授業で触れられているが、様々なアプローチがあると思う。今までは、市長が教育の中身まで踏み込むことは法律上できなかったが、平成27年4月から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、市長が教育の分野でも議論できるようになったので、今後、教育委員会とも話をしていきたい。

●団体

学校教育で男女共同参画という男女平等の概念を教えることはとても大事であり、教育が計画から抜けたのは残念である。計画に加えることで、市と教育委員会との垣根が低くなり議論がしやすくなるのではないかと。また、学校の先生や保育園、幼稚園等の職場には女性が多いと思うが、『男の子らしく』『女の子らしく』のような言葉は使用しないようにするといった研修も必要である。

近年では、LGBT（L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシュアル、T=トランスジェンダー）についても関心を持っているし、個人が尊重される社会を目指したい。

○市長

男女共同参画には様々な面があるように思う。分け隔てなくという部分と、自分の性として持って生まれた本能的なものがあると思うが、おそらくそれぞれの受けとめ方が違うと思う。

## ●団体

fプランについては、1年半か2年ぐらい前に策定するための委員会が立ちあがり、行政と市民参加という形で前進していくものだと思うが、既に内容が固まりつつあると聞いている。最終段階でパブリックコメント（パブコメ）で意見を出せば、何らかの回答は出てくるが、すでに内容が固まっており市民の意見が反映されないことが多い。したがって、早い段階でパブコメを出すとか、ワークショップのような形で説明をしてもらうことで、意見が取り入れられることもあると思う。

また、時代の流れは非常に早いため、5カ年計画を2～3年で見直しするというのを付記等に記載し、マタニティハラスメント、デートDV等フォローできるような形で見直しをしていただきたい。

さらに、政策方針決定の場への女性参画について、fプランに対しての目標達成度一覧表があり、その中に審議会委員の登用率が出ているが、女性が登用されていない審議会をなくしていくように取り組んでほしい。

もう一つは、女性職員の育成と、幹部職員への積極的登用について、小さい市では登用率を6%、7%と増やしていくことは大変だが、船橋市は母体が大きく女性の職員も多いので、人材育成と登用をうまくリンクさせていけば、かなり効果が上がると思う。それは、今の世の中全体の流れとして当然の方向であり、その点についてお伺いしたい。

## ○市長

パブコメは機能している時もあるが、審議を重ねて概ね決定した段階でパブコメをやるので、なかなか修正がきかない部分もあり、このやり方は内部でも議論がある。次期計画の進め方で、どう反映していくかについては、担当を含めて相談していく。

政策方針決定の場への女性参画についてはそのとおりである。ただ、最終的な数字だけの問題ではないが、女性がゼロの審議会はほとんどないと思う。技術的な分野に女性がいないケースもあると思うが、さすがに女性ゼロの審議会の時代ではない。

幹部職員の登用は意識だけではなく、働く体制等も関係してくる。幹部職員の中にも女性職員はいるので、彼女たちを十分活かせる場は整えたいと思う。

当然、幹部になるということは、個人の能力だけではなく、チームをまとめあげる等の能力が必要になってくる。課長が自ら動いてしまうと組織として保てないこともあり、個人の能力が高いだけでは幹部にはなれないが、そういった意味で、素晴らしい職員は大勢いるため、積極的にやっていきたい。

●団体

ぜひ、お願いしたい。次に、この男女共同参画センターの利便性及び知名度の向上について話したい。

男女共同参画センターの近くに住んでいる私の友人は、「30年間利用したことがない。」と言っている。広報活動として、男女共同参画センターの情報誌『f(えふ)』をもっと出すことで、大勢の方に知ってもらうことができるため、利用が増えると思う。

○市長

このセンターを利用したことがないというのは、この施設が他の人にとって必要か、自分が必然的に行く場所かどうかということだと思う。当然、男女共同参画の活動をしている人のための施設であるが、例えば、空いている場所を他の活動団体に開放することで、1回でも足を踏み入れてもらい、中にある掲示物を見て興味を持ってもらう。そういった仕掛けをしていかないと、男女共同参画だけを訴えても、普段そういう活動がない人にとっては、使いたいけど使えない状況になる。このような男女共同参画を意識する機会を作るような発想が良ければ、所長等と相談の上、提案させていただきたい。

●団体

センターフェスティバルが始まってだいぶ経つが、参加者が少なく、盛り上がり欠ける。それはPR不足が原因ではないかと思う。始まる前にビラをもっと配ったり、商店街を巻き込んで積極的に集客するといったようなことが必要ではないか。

普段から利用者を増やす工夫も必要と考えている。

○市長

イベントは、やはり楽しくないと人は来ない。例えば、ターゲットを絞り、来た人に楽しさを与えられるのかが必要だと思う。やり方によってじわじわと人が増えてくるようなイベントもある。

次に、PRの話だが、商店街を巻き込むのは簡単ではなく、商店街の人たちに協力してもらうためには何が必要かという、普段からのつき合いである。商店街の企画に対しても、こちらから参加したほうが良いのではないか。そのようなきっかけから、お互いが仲良くなっていれば、協力してもらえるはずなので、ぜひ、皆さんにも実践してもらいたい。

もう一つは、「つながる」ということである。市内で活動する市民団体の若手は、いろいろなイベントを自分たちで考え、子供たちのために活動している。それらの力がつながり、新しい力を生み出している。

センターフェスティバルのPRをするにあたっては、例えば市民団体にまちづくりの話等の講演をしてもらい、こんな活動をしている若者がいるんだというところから交流を持ち始めるといいと思う。男女共同参画の計画等の骨格は、市できちんと作ることが必要だが、それを市民レベルに落とし込んでいくのは、まさしくその辺りだと思う。

#### ●団体

本当にそうだと思う。センターフェスティバルを自分たちの手で広げていくために、男女共同参画センターと話し合いながらやっているが、もっと積極的にいろいろな団体とつながりたいと思っている。

次に、市民公募企画については審査があるが、審査について公開制度を導入すべきではないかと思う。採用、不採用は仕方がないとしても審査結果は理由を書いて、今後につながるような方法にしてもらいたい。

男女共同参画センターは、暫定的な施設ということでオープンした。近隣ではおそれないと思うぐらい自慢できる保育室もあり良い施設だが、場所がやや分かりづらい。新たな施設の建設計画はあるのか。

世界的にも男女共同参画が進んでいる国は生産性も上がっており、少子化も解消されている。そのため的手段として、すぐには無理だと思うが、男女共同参画条例が必要だと思う。

#### ○市長

まず、市民公募企画の審査方法などについては、改善する必要がある。これは所管と調整する。

次に、この施設は、本来の目的である男女共同参画を進めるための施設であ

る。その動きをきちんとできる努力をするので、新たな施設建設については、しばらく我慢してもらいたい。

条例の話は、私なりに勉強して何かの機会に議論できればと思う。

今いろいろな取り組みがあるが、皆さんから見て、この男女共同参画で市が最初にやるべきことは何か。

●団体

市の職員の方に、男女共同参画センターのことを知らせてほしい。

また、男女共同参画は、国では内閣府、県では総合企画部で所管しているが、船橋市では企画財政部から市民生活部へ所管が変わった。条例や、参画計画をきちんと作ってもらいたいのだが、この状況でいいのか。

○市長

男女共同参画センターのことは職員に知らせるよう徹底する。所管部署については、企画財政部の段階は過ぎたと思う。市民生活部はコミュニティの根本になるわけで、市民協働や様々な団体とのつながりという意味でも、これからの動きとして正しいのではないか。

実際に、活動の場に移るべき時期なので、企画というよりはもっと市民生活の中で男女共同参画を捉えていく時期ではないかと思う。

●団体

市民協働については大賛成。市民と行政が協働でやっていかなければ、この男女共同参画センターの利用者だけが思っている市民協働にはならないと思うし、市民生活部になった意味がないと思う。

○市長

最後に、先ほども言ったように、男女共同参画も青少年育成もそうだが、これからは分野ごとにやる時代ではなくなっていると思う。

柱はそれぞれ持っていて活動をされているが、そこへ横の橋を渡していくことで、様々な広がりが出てくると思う。そういった意味で、いろいろなところに顔を出して、声をかけてみるということをぜひやってもらいたいと思う。

●一同

ありがとうございました。